

かさまつ



青少年育成町民会議だより

はじめてみませんか・・・



地域のふれあい



春日東陽常盤町町内会 クリスマスケーキづくり

十二月十三日笠松中央公民館調理室において、『春日東陽常盤町三世代ふれあいクリスマスケーキづくり』が行われました。

当日は、子ども会・町内会・老人会(若松会)・婦人会から五十名余りの参加がありました。六つの班に分かれ、クリスマスケーキ作りが、始まりました。生クリームの泡立てをして、いよいよ飾り付け・・・子どもたちは、手やエプロンに生クリームを付けながらも町内のおじさんやおばさん達と楽しく会話をしながら、思い思いにイチゴやチョコプレートを綺麗に飾り付けていました。ケーキを作り終えて「ケーキの飾り付けを近所のおばさんと一緒に出来たととても楽しかった。」と笑顔で話してくれました。

町内会長さんが、「うちの町内は、子どもからお年寄りまで、顔見知りが多くて安心できる。町民運動会などの行事も一致団結で毎年盛り上がる自慢できる町内だ。これから先も町内の皆さんとのふれあいの場を継続して企画していただけるのを、楽しみにしています。」とお話して見えたのが印象的でした。

町内の皆さんの温かい眼差しと、美味しい、美味しいケーキで心もお腹も一杯になった一日でした。

家庭部会

二分の一成人式

～親から子へ・子から親への手紙～

家庭部会では、親子の絆を深め合う取り組みとして、今年も10歳を迎える児童とその親が互いに手紙を送りあう「二分の一成人式」を行いました。

思いがけないたくさんの賛同と心温まる手紙が寄せられましたのでその一部を紹介します。



▲「二分の一成人式」の冊子

親から子へ

赤ちゃんの時、時々何をやっても、ずっと泣くのをやめないで「もしかしたら病気では?」と心配したことが何度もあります。

今ではそんなことはないけど、ちっとも笑わない子供でちょっと恥ずかしいと思ったこともありました。この頃は10年後の現在の姿を想像することも出来ないくらい毎日が大変でくたくただったけど一日が終わりやっと眠ったあなたの顔を見ているととても幸せな気分になりました。

そんなあなたも大人になった時の夢を持てるようになったんだね。これからもいろんな夢を持ってどんなことにもチャレンジしてほしい。チャレンジするあなたを父さんと母さんは絶対に応援します。父さんと母さんのところに生まれてきてくれてありがとう。

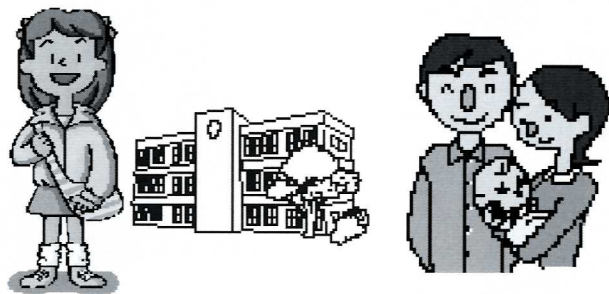
子から親へ

お母さん、お父さんへ

10年間毎日育ててくれてありがとう。熱を出した時やいろいろあった時に、わたしのめんどうを見てくれたりしてくれました。わたしはようち園の先生、花やさんにになりたいと思います。

少しお願いがあります。わたしの願いもきいてください。

「これからも毎日元気でいてください。」



三世代ふれあい活動

地域活動部会

地域活動部会では、青少年の健全育成や地域の活性化を推進するために、町内育成員を中心に特色ある活動を通して、子どもからお年寄りまでがともに交流する三世代ふれあい活動を進めています。



▲泉町 「三世代ふれあいバーベキュー大会」



▲中門間 「三世代ふれあい春祭り」

第31回少年の主張大会

中央公民館
H.21.6.14

青少年教育部会

(敬称略)

最優秀賞に選ばれた下記の名の方は、県大会出場者選考委員会に推薦されました。おめでとうございます。

最優秀賞



杉山 裕子

最優秀賞



堀 由佳

優秀賞 小学生



岩田 拓磨 土屋 真希 赤塚 浩明
森 麻衣子 安藤 巨輝 水谷 華奈

優秀賞 中学生



浅野 翔平 堀江 優里 五十嵐 有佳

非行対策部会

街頭啓発活動

青少年によい環境を.....

7月5日(日)青少年非行防止活動とし「笠松駅」「本町通り」「トミダヤ(長池)」「ピアゴ(米野)」にてティッシュや生花を配りました。



▲公民館前にて出発式



▲トミダヤ(長池)での啓発活動風景



▲笠松駅での啓発活動風景



▲ピアゴ(米野)での啓発活動風景

青少年の作文 テーマ「家庭・学校・地域」

町の審査結果で、下記のとおり選ばれました。おめでとうございます。(敬称略)

最優秀賞



笠松小1年
高木 真夢



松枝小6年
浜野 綾音



笠松中3年
廣田 素子

優秀賞

- | | |
|--------|-------|
| 笠松小3年 | 山田 彩夏 |
| 松枝小2年 | 相崎 実桜 |
| 笠松小5年 | 赤尾 透真 |
| 下羽栗小6年 | 岩崎 麻弥 |
| 笠松中2年 | 安田 百花 |

青少年健全育成講演会を開催しました

テーマ『青少年健全育成に関わる大人の果たす役割』

講 師 岐阜県立わかあゆ学園 指導課長 山田 隆徳 氏

日 時 平成21年11月27日(金)

ご自身の経験された事例をもとにお話しいただき、家庭や地域の大人が果たすべき役割と子どもの心を知る大切さについて、一緒に考えていく事を学ばせていただきました。



編集後記

百二十年は「大還暦」といい還暦を二周することを意味するらしい。歴史には、伝統と文化を創り出す深いものがあります。「笠松町生誕百二十年」にあたり多くの冠事業が開催されました。多くの人が携わり、気づき、共感できたと思います。町民会議でも、「第31回青少年の主張大会」がありました。この町に住む子ども達の純粋な思いや意見を聞く大切な機会だと思います。ステージ発表までの子ども達の真剣な取り組みのプロセスは伝える能力を確実に成長させます。また、聞く側の大人は時世を考え、次世代を担う子ども達の願いが叶うよう地域の人としてサポートしていくキッカケづくりになります。「主張大会」に限らず、其々の事業の「当初」行われてきた「ねらい」「目的」をこの機会に、原点にもどり今一度考えてみましょう。何が大切なことで、何が必要か。そして、何を伝えていかなければ成らないのか。いつの時代も子ども達を思う親の気持ち、地域の願いは変わりありません。(昌)